
バカな奴らとFクラス

キッド

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バカな奴らとFクラス

【NZコード】

N3100N

【作者名】

キッド

【あらすじ】

人を信じぬ主人公が明久達Fクラスでかわるのか！？

始まり（前書き）

原作が大分歪みます
嫌なら戻ることをオススメします

始まり

俺は今桜の咲いた坂を上っている
俺の名前は櫛 極【なら きわみ】女みたいな名前？シバくよ
「来たか櫛」
「はよざいます西村先生いや、スネーク」
「西村先生と呼べと何回言つたと思つていてる」
「一万以上」
「とにかくこれが振り分け試験の結果だ」
「掲示板に貼れよ」
「普通はそうするんだがウチは最先端システムを導入した試験校だからなこのやり方もその一環つてわけだめんどくさ」
結果は
櫛 極・・・・・Fクラス
「何故だスネーク」
「大問1だけ解いて寝ればそうなるだろうが」
「そうだつけ？」
廊下
「これがAクラス、デカいな、少し覗いてみると・・・どこ」の
ホテルだよここは「個人冷蔵庫、個人エアコン、ノートパソコン
・・・・・もうFクラスに行こう、がつかりしたくないし
Fクラス
ガラ
「・・・・・はあ」
ひどすぎ、座布団、ちゃぶ台、割れた窓
とりあえず適当な席に座る
ガラ
「早く座れこのウジ虫野郎！！」

開口一番が罵倒かよ

「ちょっとどうしていらっしゃますかね？」

誰だ？制服じゃねえから教師か

「えー、おはよう」ざいます。一年F組担任の……福原慎です
よろしくお願ひします」

名前書くのを辞めた、何？チョークすら無いの？
これだと設備の不備は我慢しちゃうな、寝よ

「では自己紹介でも始めましょつか

お、我ながらナイスタイミングだな

「木下秀吉じゃ、演劇部に所属してある

と、いうわけじや今年一年よろしく頼むぞい」

女？いや名前からして男だろ

「…………土屋康太」

静かだな

「…………です。海外育ちで、日本語は会話はできるけど読み書きが
苦手です」

このクラスにも女子はいるのか

「趣味は吉井明久を殴ることです」「

普通じゃねえ

吉井明久、大丈夫かねえ

「はろはろー」「

「…………あう。島田さん」

あいつが吉井明久があわれ

「…………です。よろしく」

そんなことを考えてるうちに吉井明久の番になつた

「　　「ホン。吉井明久です気軽に『ダーリン』って呼んでくださいね」

『『ダアアーリイーーン！…』』

おえ

「失礼。忘れて下さい。とにかくよろしくお願ひ致します」
不愉快になるなら言うなよ

あ、俺か

「極だ。趣味は特にない、好きなものも特にない、嫌いなもの

は人と五月蠅い事だ以上

（人なのに入人が嫌いって）

「理由は信じてもいざれは裏切られる、だから人は信じない

「疑心暗鬼と言つやつじやな」

まあ当たりだな

「後1つ良いかの」

「なんだ」

「その顔のペイントみたいなものはなんじや？」

これが

「小さい頃親父にいれられた」

「納得じや」

ガラツ

「遅れてスマセン。保健室に行つてて」

「ちょうど良かつた、姫路さん自己紹介をお願いします」

「あ、はい、姫路瑞希といいますよろしくお願いします」

確か学生次席のはず、何故

「はい！質問です！」

「あ、はい！何でしょう」

「なんでここにいるんですか？」

知らない奴が見れば最低だろうな

「試験中熱を出してしまつて」

なるほどな

「俺も熱（の問題）が出てFクラスに」「ああ、化学かあれは難しかつたよな」

「弟が事故にあって」

「だまれ一人っ子」

「昨夜彼女が寝かせてくれなくて」

「今年一番の大嘘をありがとう」

凄い言い訳だな

「そこ」、静かにして下さい」

「あ、すみま s」

バキイ ガラガラ

・・・・・・・ もろ！ あれだけで壊れるのかよ

先生が換えを持って来るまで俺は寝た

『 』『 』『 』大ありじゃあ！ ！ ！

いきなりなんだ！！

「だろう？俺だってこの現状は大いに不満だ。そして代表としての提案だが、FクラスはAクラスに『試験召喚戦争』をしかけようと思ふ

無理だな

FがAになど勝てるわけがない
『 勝てるわけがない』

『これ以上設備を落とされるなんて嫌だ』

『姫路さんがいたら何もいらない』

予想通りの悲鳴が聞こえる

最後のは違つか

「そんなことはない。必ず勝てる。いや、俺が勝たせてみせる」「もう一度言おう、無理だな

学力が違うすぎる

「その赤髪

根拠はあるのか

「俺は坂本雄二だ聞いてなかつたのか?」

「興味ないから寝てた」

「まあいい、根拠ならある、それを今から説明してやる」

姫路ぐらいしかまともに戦えないだろ

「康太。畳に顔つけて姫路のスカートを覗いてないで前に来い」

「・・・・・(ブンブン)」

ムツツリか、いや、オープンだな

「土屋康太、こいつがあの、寡黙なる性^{ムツツリニ}識者^者だ」

矛盾発見、オープンなのにムツツリーニ

「姫路のことは説明しなくていいだろ。皆もよくわかつてゐるはずだ」

「私ですか?」

「ウチの主戦力だ」

「木下秀吉だつている」

木下秀吉、演劇部のホープでAクラスに双子の姉が居る

「俺だつて本気を出す」

『坂本つて昔神童つて言われてなかつたか?』

『Aクラス並みが二人いるつてことだよな』

「吉井明久だつている」

シーン

士気が下がつた

『誰だ吉井つて』

「知らないのなら教えてやる、『イツの肩書きは『観察処分者』だ』

『なら、召喚出来ない奴がいるってことだよな』

「安心しろ、いてもいなくとも変わらない奴だ」

「甘いな、観察処分者は召喚獣で雑用をやるために、誰よりも操作技術が高い、戦死はまずないだろう」

うおー

柄じやねえ俺の

「この境遇は大いに不満だろ？！」

『当然だ！！』

「ならば筆を執れ！出陣の準備だ！」

『オオーーツ！…』

「・・・・・つるせ」

「明久、死者を頼んだ」

「今字が違ったよね？」

「大丈夫だ何もされない、俺を信じじろ」

「わかった、行ってくる！」

▽Sロクラスそしてその後

坂本が戦争の引金を引いてから一日
あの後吉井明久がボロボロで帰つて来たのは言つまでもない

「ふあ～あ、ねむ」

いつもどおり登校していた

途中まではな。

「ちょっとやめてください」

「良いじゃね～かよ学校なんてサボっちゃえよ」

朝からナンパか

ドガッ

「朝つぱらからナンパとは暇だな、仕事しろ」
俺がナンパ男を蹴りながら言つと

「ちつ覚えてやがれ！」

捨て台詞を吐いて行つた

正直言おつ

嫌だ、めんどい

「助かつたよありがと」

「通行の邪魔だつた、だから蹴つた、ただそれだけだ」

「でも助かつたよ、ボクは工藤愛子、よろしく」

「極端、別に覚えなくて良い」

そつ言つて学校に向かう

「野郎共！戦争開始だ！きつちり死んでいい……」

『うおおーーーー！』

死んだらダメだろ

だだだだだ

メンバーが一斉に廊下に出る

「いやー頑張るね〜」

「櫛！なんで此処にいる」

「Fクラス所属だから」

「違くて、なんで戦闘に参加しない」

「俺を信用させる、ロクラスごとき、勝てるよな？」

「当然だ」

どのくらいたつただろうか、時計を見よりとしたとき『勝者 Fク

ラス！』と聞こえた

「勝ったか」

さて、次は参加しますかな

点数は・・・・真面目にやるか。

「櫛、勝つたぞ」

「聞こえた、次は俺も参加しよう

じやあ帰るか

「明日はテストをやるからな、しっかり勉強して来いよ

『うーーっす

やる気が感じられねえ

翌日

テストが終わり、昼休み

「ねえ、櫛君、ちょっといい?」

「吉井明久か、何のようだ?」

「いや、お弁当、一緒に食べない?姫路さんが作ってくれたから」

「断る」

きっぱり断つた

群るのは嫌いだ

「きょ～せ～れんこ～」

意味分かつてんのか?

何だかんだで屋上にきた、無論一人奥で食べる

「のう櫛よ、おぬしもこっちで食べぬか?」

「自分の弁当があるから断る」

「そんな事言わずにさ～」

しつこいな

ガチャ

「へえ～どれどれ、うまそудан

坂本が入ってきた、食つた

バタン!ガタガタガタ

は?

「雄一い！」

どうしてこうなった!?

それをみて俺はバレないように屋上から脱出した

その後、坂本達が戻つて来た後吉井明久がボロボロで帰つて來た

「言い訳を聞こうか」

「予想どりだ」

ある意味流石だな

さて、
帰るか

オリキャラ紹介（前書き）

今更ながらオリキャラ紹介です
未登場キャラがいるため、ネタバレになりかねます、嫌ならブラウザバックをオススメします

オリキヤラ紹介

オリキャラNZO.i

七

【なまめ】

日外三才所屬

性別
異

疑心暗鬼？

特徵

顔にペイントのようなものが書かれている、ちなみに消えない（イ

三歳くらいの時に父親に入られた。

目は右が青、左が緑のオッドアイ、目は常に半開き制服の袖の中に、サバイバルナイフ五本、スタンガン30万ボルト2つ、トンファー、1つエアガン（小改造当たれば気絶するぐらい）2つ髪の色は銀色、髪の毛は腰まであり、時々三つ編みやらポニー、テールなどにしてる

顔は

可愛い
格好いい

4
•
•
6

一五八

口癖？無駄な〇〇ご苦労様

召喚獸

極を小さくした感じ、

裝備 放射式筆手

召喚獣の右腕の肘からついている、縦にすれば召喚獣より少しテカ

卷之二

後ろが少し尖つていてそこで攻撃もできる、点数を20消費する事でレーザーを発射できる、普通に殴る事也可、

防具

タンクトップにズボン、その上にマント

腕輪

鍊装士

点数で変わる武器が違う

得意科目

数学、化学

苦手科目

英語

オリキヤラノ・2

彩憐慈 灯

【さいれんじ あかり】

Aクラス所属

性別 女

性格 明るい

特徴

青色の髪をしている、みんなのことをすぐにあだ名で呼ぶ

楓とは中学からの仲

楓が周りに冷たくして、周りから外れても灯は声をかけた
目の色は赤

口癖

アハ

召喚獣

灯を小さくした感じ

武器

鉄製ブーメラン

防具

アメフトの防具ヘルメットはない

腕輪

超スピード

土屋の加速より速い

得意科目

古典

苦手科目

化学

オリキヤラノ・3

新城博士（本名新城 聰）

【あらわせ わざわざ】

57歳

男性

極が信用している数少ない人、
凄い発明や偽発明をする

VS Bクラス？

Bクラス戦当日

「午前中テストとか面倒くさいよ疲れた～」

キーンゴーンカーンゴーン

「時間だ！野郎共きつちり死んでーーー！」

『『『イエス、マムー』』』

わて、行きますか

廊下

お、いたいた

「よお吉井明久」

「極君、来たの！？」

じやあ鬪つて

今名前で呼ばれたようなまあいいか

「Fクラス櫛極此処にいるBクラス全員に総合科目を申し込む

「Fクラスのクセに生意氣な！」

「やつちまえ！！」

「『『『試験召喚』』』』

Fクラス櫛極

総合科目 3519点

VS

Bクラスモブ×10

総合科目 平均1580点

『『『なにい———』』』』

うるせえな

「極君！…なんでそんなに点数高いの…？」

「ちゃんと全部解いたからな」

「え？ 極君、振り分け試験の時はどうだったの？」

あーあん時

「4、5問解いて寝た」

だが、今は戦争中だつたな

「Let's showtime」

「おらあ

「甘い、生クリームだらけのケーキより甘いわ！」

「確かにそれは甘い」

「かかれえー」

「遅いし遠い！

シユート

「な、ぐはあ

「はい終わり

Fクラス 極

総合科目 3499点

VS

Bクラスモブ × 10

総合科目 0

「なんで極君の点数減つてんのー？」

これが

「さつき武器からレーザーが出たろ、その所為だ」

じゃ、さつせと蹴散らしますか

「明久よBクラス代表じゃが、あの根本らしい
誰？」

あ、吉井明久達がもどる、まあ関係ないか

ただ倒すのみ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3100z/>

バカな奴らとFクラス

2011年12月25日18時48分発行